

いしずえ

2020 12 2021 1 月号
＜ 合 併 号 ＞

第632号 2019・12・20 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-33-32 TEL 03-3314-5688 FAX 03-3314-8954



クリスマス 新年

おめでとうございます



解放への招き

クラレチアン宣教会司祭 梅崎隆一

出エジプト記には、奴隷であったヘブライ人が神様に出会い、自由にされたことが記録されています。神から遣わされたモーセは「ヘブライ人の神、主がわたしたちに出現されました。三日の道のりを荒野に行かせて、主に犠牲を捧げさせてください」（出3・18）とファラオに頼みます。ファラオはそれを拒み、10の災いがエジプトを襲いました。その中には疫病の災いといなごの災いがあります。疫病の災いをコロナ、いなごの災いをいなごの大移動で植物が食い荒らされている状態と考えるなら、今の世界で起こっている災いであると言えます。

聖書では、ファラオの心を頑なにするために引き起こされたと表現されています。ファラオに限らず、災害が起きたときに、変化を受け入れない有様を「頑な」と理解できます。ファラオは災いが過ぎ去るとモーセとの約束を反故にし、天災以前の状態に戻しました。ソドムとゴモラに降りかかった天

災から逃げる際、後ろを振り返るなどという神の声に聴き従わずに塩の柱になったロトの妻の話に似ています。昔の生活に戻るだけでは昔の課題を解決できません。

コロナに限らず、戦争や地震、洪水などの災害があつても日常を取り戻し、その中に埋没すると忘却してしまします。天災は終息する。しかし教訓を忘れてはならない。それは歴史の事実として記録するだけでなく、私たちの生き方の変化が問われています。コロナ以前の世界は、格差による新しい奴隷制、可視化できない貧困など、疫病といなごに匹敵する人災に苦しんでいました。これらを是としていた世界が混乱したのですから、そこから脱出し自由を手に入れるチャンスとなります。人災と天災の最中、私たちも人生の中で主に出会うことで、奴隷の状態から解放され、自由な民となり、共に主を賛美する日々を過ごすことができますように。